

<地震防災マップの解説>

鳥取市では、市民のみなさまに、ご自身の家庭、職場など生活の場での揺れやすさや危険度を認識していただき、市民と行政とが協働して地震による被害を軽減することを目的として、50m区画(50m×50mメッシュ)毎に、揺れやすさや危険度を表示する地震防災マップを作成しました。

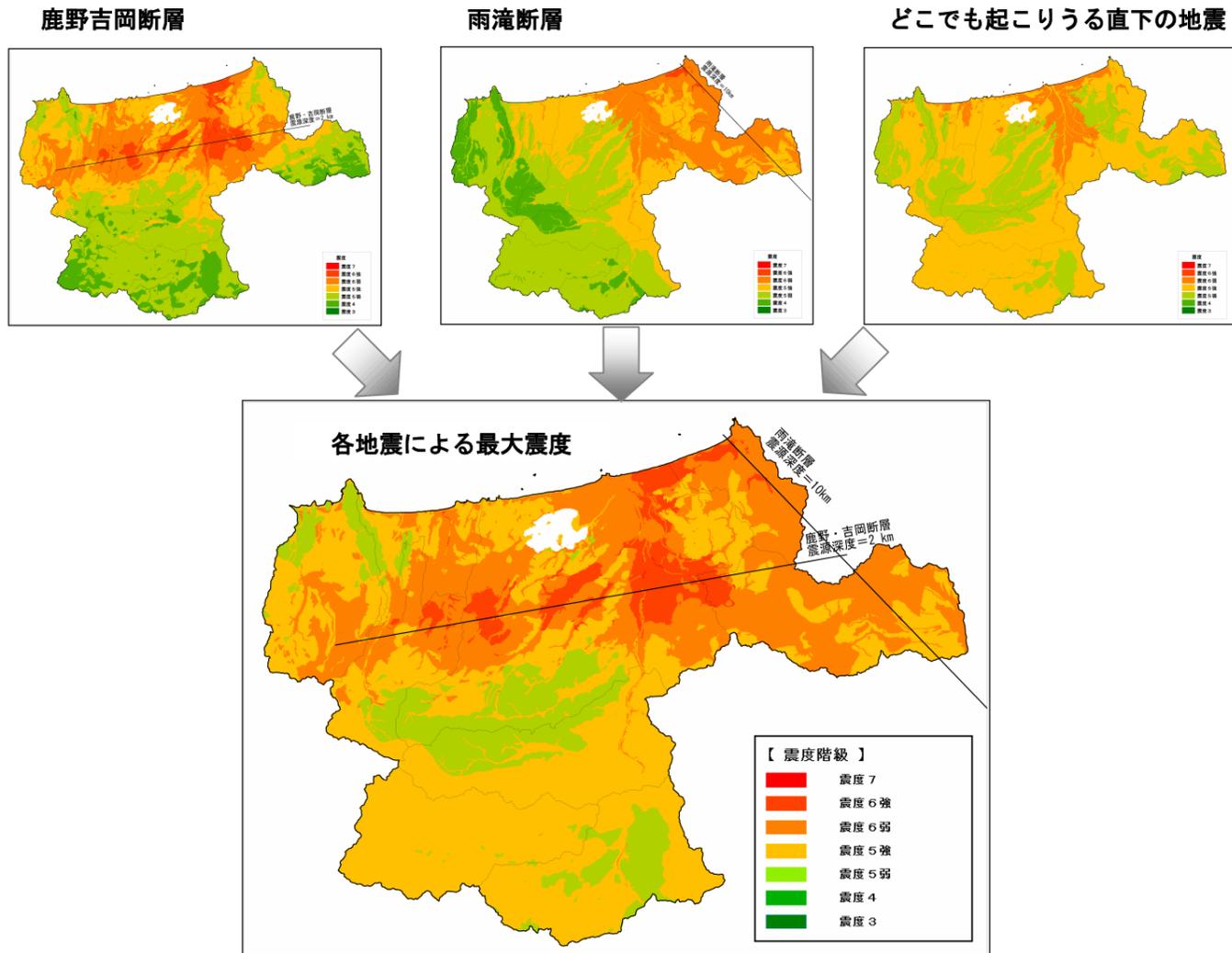
想定地震について

鳥取市の地震防災マップは、鳥取市に大きな被害を及ぼす恐れのある2つの断層に起因する地震を想定地震として設定しました。さらに、未知の断層が直下で動くことも否定しきれないため、このような直下型の地震についても、想定地震として震度・被害予測をおこないました。

- ・鹿野吉岡断層による地震 (マグニチュード; 7.2 上端深さ; 2km)
- ・雨滝断層による地震 (マグニチュード; 7.3 上端深さ; 10km)
- ・どこでも起こりうる直下の地震 (マグニチュード; 6.9 上端深さ; 10km)

揺れやすさマップについて

揺れやすさマップは、地震が発生した場合の各地域の揺れの強さを予測したマップです。地震による揺れやすさは、震源(地震断層)からの距離、地盤の強さなどにより地域によって大きく異なります。表示しているマップは、3つの想定地震で推定される各地の最大震度を表示したものです。



震度について

地震による震度は、体感および周囲の状況から推定される揺れの強さです。現在では、全国各地約600地点にある気象庁の計測震度計により機械的、自動的に観測し速報されています。

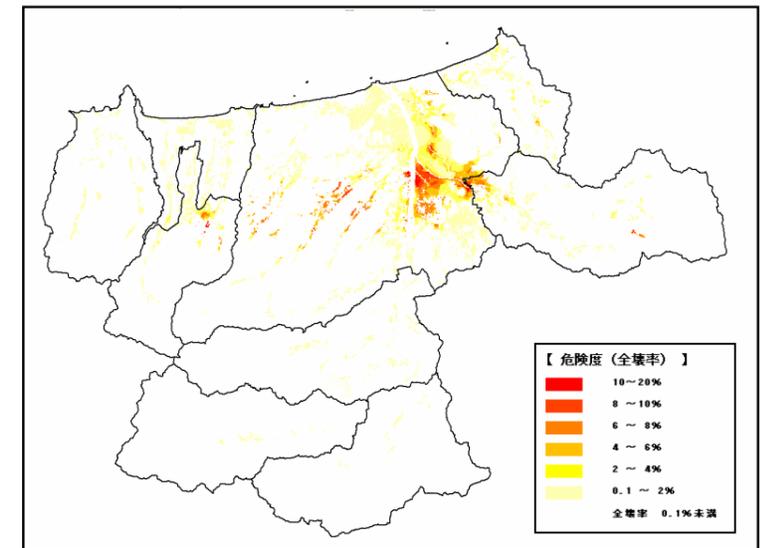
気象庁震度階級解説表 (編集抜粋)

震度階級	人が感じる揺れ	震度階級	人が感じる揺れ
0	人は揺れを感じない。	5弱	多くの人が、身の安全を四ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。
1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。	5強	非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。
2	屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。	6弱	立っていることが困難になる。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を見る人もいる。	6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。
4	かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を四ろうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。

危険度マップについて

地震による建物の倒壊率は、地震による揺れの大きさ(震度)のほか、建物の構造、建築年次、老朽ぐあい、耐震構造の有無などにより大きく異なります。また、建物の倒壊程度についても、人的被害につながる大破から、ほとんど変状のない小破まで、さまざまな被害形態となります。

ここで表示する危険度は、建物の倒壊により人的被害につながる全壊率(大破率)を表示しています。町丁単位程度の地域別集計された建物データをもとに、揺れやすさマップで示した震度になった場合に、どの程度の割合で建物の被害が生じるかを確率推計したものです。



防災マップに示す震度や危険度は、一定の仮定および条件のもとに推定したもので、鳥取市で地震が発生した場合に、表示されたとおりの状況が実際に発生することを示すものではありません。地震の震源、深さ、規模および地震発生時の自然条件によっては、図上で危険が少ないと考えられる地域でも危険な状況となることも考えられます。